| 科目ナンバリング | U-LAS00 20012 SJ34 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 倫理学基礎ゼミナール<br>Introductory Seminar on Ethics | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授　佐藤　義之 | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 哲学・思想(各論) | | | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール（対面授業科目） |
| 開講年度・<br>開講期 | 2026・後期 | 曜時限 | 金3 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

倫理とは他者にかかわる営みであり、倫理を考えるためには他者とはどういうものかという考察を避けることはできない。フランスの哲学者サルトルは、それまで他者論であまり注目されることのなかった、他人に私が見られるという体験のうちに、他者の存在の核心を探ろうとする。私を見る他者のまなざしは私にとって恐ろしいものであるとともに、私の存在を形作る柱にもなっている。

基本事項の解説を多く加えながらサルトルのテキストを熟読する。

**[到達目標]**

サルトルのテキストを英訳で読み、現象学と彼の独自の他者論について、基本的な知識を習得する。
また、このことを通じて、学術的な文章の読解力を身につける。

**[授業計画と内容]**

第１回：授業方法、成績の算定方法等についてのガイダンスを行う。

第２回～第１４回：上記テキストを精読し、詳しい解説を加える。他者という事象、サルトルの属する現象学派の考え方、またその背景にある近現代の哲学の流れについて、基本的な事項を理解してもらう。

第１５回：フィードバック（詳細は別途連絡する。）

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点。具体的には出席と参加の状況（50点）、授業時のテキストの訳の巧拙（30点）、質疑応答の際の授業内容の理解度（20点）を評価対象とする。予習が不十分な場合は減点対象である。

**[教科書]**

テキストはJean-Paul Sartreの仏語原著からの英訳 "Being and Nothingness" (Routledge社刊、ISBN：9780415278485)を使用し、必要箇所をプリントにして配付する。

**[参考書等]**

（参考書）
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

当日授業で読む箇所の予習は不可欠である。

**[その他（オフィスアワー等）]**

ゼミナール形式の授業なので、受講希望者多数の場合は抽選により受講者を制限することがある。制限の詳細は掲示等に注意すること。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**

総合人間学部